

平和を作るために自分ができること

青海中学校 2年2組 大塚 健太郎

現在、地球上では数多くの戦争、紛争が起こっている。ロシア・ウクライナ戦争やシリア内戦、イスラエルやパレスチナ近辺で起きている武力衝突など、どれも戦闘が泥沼化し、非常に多くの犠牲者を出している。しかし、日本では多くの人が戦争について深く考えていないのではないだろうか。8月6日は広島に原子爆弾が投下された日だ。このような時だからこそ戦争と平和について学びたいと思い、今回の研修に参加した。

研修を体験して身近な人に伝えたいと感じたことが三つある。

一つ目は、被爆者と被害者の違いだ。研修で講話をしてくださった多賀俊介さんは家族が原爆を体験した。多賀さんは「わたしは原爆を体験していないので被爆者ではないですが、原爆の被害者です」と語った。被爆者はだんだん高齢化し原爆の恐ろしさを伝えることが出来なくなっている。自分たちひとりひとりが原爆を伝えていかなければならないと強く感じた。

二つ目は、知ることは平和への第一歩ということだ。平和記念資料館を見学すると当時の生々しい写真や実際に被爆した衣服などが沢山あった。正直目をそむけたくなくなったが、そこで学んだことや初めて知ったことは少なくなかった。その時、平和の大切さをただ説くだけでなく実際に戦争を調べたり、被害にあった場所を訪れたりすることが平和をつくっていくのだとわかった。生々しいものは苦手だ、つらい、見たくないという意見もあるかもしれない。だが実際に学んでみると「怖い」「つらい」という気持ちから「このような悲劇を二度と繰り返

してはならない」に変わり、誰かに伝えたくなる。そうして平和がつくられていくのだと自分は信じている。

三つ目はこれからの平和をつくっていくのはわたしたちだということだ。戦争を体験した人はだんだん少なくなっている。自分たちが行動し、伝えていかなければ、平和をつくるのが困難になり、核戦争の危険が高まってしまうかもしれない。そうならないようにまずは広島で研修を終えた自分から身近な友達に発信していきたい。

広島派遣こと業ではたくさんの学び、発見があった。今回研修に行った時間が無駄にならないように、また、平和への道が途切れないように今回体験したことを家族や友達に伝え、地域全体で平和をつくっていきたい。
